

## 〈報告要旨〉

# 財政政策の効果

## － Expectation Augmented VAR を用いた分析 －

一橋大学大学院 経済学研究科

森田裕史

### 概要

本論文では、財政政策の予見性 (fiscal foresight) を組み込んだ Expectation Augmented VAR という手法を用いて、日本の財政政策、特に政府支出の増加が民間消費に与える影響を分析している。Expectation Augmented VAR は、施行ラグによって来期の財政ショックを今期時点で知っているという仮定を置き、期待形成のプロセスを明示的に組み込んだ VAR モデルである。本稿の特徴は、期待を考慮に入れた分析を行っていることに加え、政府支出の種類と推定期間を分割したことにある。前者により、政府支出の質の違いによる民間消費への影響を分析することが可能になり、後者により先行研究で指摘される近年の財政政策の効果の低下を再検証することが可能になった。分析の結果、政府最終消費支出の増加と公的固定資本形成の増加では民間消費に対して全く異なった影響を与えていることがわかった。具体的には、前期では民間消費に対して公的固定資本形成の増加は正の影響を、政府最終消費支出の増加は負の影響を与え、後期ではそれが逆転した。また、期間別の分析において、政府支出全体の増加に対する民間消費の反応が後期に減衰し、先行研究が指摘するような財政政策の効果の低下が示される結果となった。しかし、先行研究で多く用いられている通常の Structural VAR の結果と本稿の Expectation Augmented VAR の結果を比べると、本稿の結果の方が民間消費の反応が大きくなることが示された。これは、fiscal foresight を考慮しないこれまでの分析では、財政政策の効果を過小に評価していた可能性を示唆している。

キーワード：政府支出ショック、財政政策の予見性、ベクトル自己回帰モデル

JEL Classification：E62, H30.